

広域避難できないときの とどまるための日頃の備え

- 逃げ遅れて区内にとどまった場合、長いところでは2週間以上のあいだ、浸水の中で生活しなければなりません。
- 食料や飲料水、トイレ用品などの十分な準備と、長期間孤立してしまうことへの覚悟が必要です。



1. 洪水や高潮のとき自宅がどうなるかを ハザードマップで確認しましょう

ハザードマップでは、自宅や勤め先などがどのくらい浸水するかという「深さ」と、どのくらい浸水が続くかという「時間」を確認することができます。



2. 広域避難せずに自宅にとどまったときの あなたや家族の状況をイメージしましょう

江戸川区や江東5区では…

ほとんどが水没
してしまいます



長いところでは
2週間以上

浸水の中に250万人

とどまる人が多ければ多いほど
救助に時間がかかります



孤立化

国の試算によると
救助できるのは1日2万人が限界

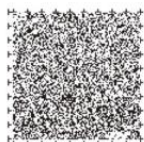
自宅では…



台風シーズンは蒸し暑い季節なので
衛生的にも精神的にも
大きな負担となります。

浸水の中で水が引くまで、長いところでは2週間以上も、水道・電気・ガス・トイレが使えない生活に耐えなければなりません。自宅にとどまるには覚悟と備えが必要です。

まずは、浸水のおそれがない地域への避難を考えましょう



3. 避難のときに必要なものについて P.12 を参考に準備しておきましょう

それでもとどまることになってしまった場合は…

4. 2週間以上の水道・電気・ガス・トイレなどのライフラインの停止に備えて 十分な備蓄品を準備しておきましょう



☐ 食料（2週間分）

缶詰、レトルト食品、栄養補助食品、
お菓子、調味料、スープなど

定期的に食べて
食べた分を買い足すことが
備える習慣になります



☐ 飲料水（2週間分）

大人1人当たり1日3リットルを目安に用意

☐ トイレ用品（2週間分）

簡易トイレ、汚物保管用容器、トイレ袋、トイレットペーパー

☐ 燃料（2週間分）

カセットコンロ、カセットガス、固形燃料

☐ 食品用ラップ

☐ 寝具・寝袋

☐ 洗面用具

その他 マンションごとに備えておきたいもの（浸水しない階で備蓄をする）

マンション、集合住宅ごとにみんなで使うものを備蓄しておきましょう。

☐ 救命・救助のために必要なもの

☐ ゴムボート

☐ ロープ

☐ AED

☐ 担架

☐ とどまるために必要なもの

☐ ランタン

☐ 発電機

☐ 発電機用燃料

☐ コードリール

☐ 投光機

☐ テント

